

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ランチ福岡下原	階数	地上2F
建設地	福岡県福岡市東区下原4丁目1000-4、1000-16	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	7,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,745 時間/年
建物用途	物販店,飲食店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年11月1日
敷地面積	21,997 m ²	作成者	吉田俊文
建築面積	6,959 m ²	確認日	2017年11月1日
延床面積	11,062 m ²	確認者	吉田俊文



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>物販及び飲食を中心とした商業施設で、利用者が使いやすい安全に配慮した設計を行っている。また、太陽光発電や、屋上緑化など環境配慮設備も設置している。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>特に物販店舗において、テナント毎に空調制御が可能な計画としている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>ハートビル法の認定取得を念頭に置いた計画を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>高いレベルの「BEI値」となっている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>省水型機器の採用、再生木材の採用、ODP=0の冷媒を採用</p>
<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>南北に長い施設配置とし、風の流れを妨げない計画とした。</p>	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される